

令和3年（2021年）8月31日

横須賀市長 上 地 克 明 様

横須賀市議会
新型コロナウイルス感染症対策検討協議会
委員長 西 郷 宗 範

新型コロナウイルス感染症への対策等に関する要望・確認事項について

新型コロナウイルス感染症への対策等について、下記事項を本書により要望及び確認いたします。

記

- 1 1月22日の新型コロナウイルス感染症対策検討協議会で、疫学調査の目安としては一日最大50件であり、これを超えるときは、感染症に携わる全てについて見直しをしなければならなくなると疾病予防担当部長から発言があった。
その後、8月5日には市内の患者確認が50名を超える事態になり、一日当たり100名近い日が続き、ついに8月21日には159名となった。
感染者が急増し始めた経過・現状・今後の見通しについて、以下の点を含めて確認したい。
 - (1) 検査体制
 - ・一日当たりの新規PCR検査数の上限
 - ・検査可能件数を超えるニーズの有無
 - ・一日当たりの疫学調査対応可能件数
 - ・感染経路の追跡調査の範囲
 - (2) 市内病院の状況
 - ・妊産婦の受け入れ等
 - (3) 保健所の状況
 - ・職員による応援体制の見直し、増員の可能性
- 2 濃厚接触者の基準を改めて確認したい。また陽性者等が着用していたマスクの種類（不織布やウレタンなど）によって、濃厚接触者として扱われ

る範囲が変わることがあるか確認したい。

- 3 家族の感染が判明し、明らかに濃厚接触者に該当すると思われる方が無症状であるためにPCR検査が受けられなかったということを聞いた。PCR検査を受けられる判断基準を確認したい。
- 4 自宅療養者への対応について、食糧配布サービスは陽性者分のみで、濃厚接触者となった同居家族分の食糧配布は行われぬのか。また、菓等の支給や容態の確認といった対応を確認したい。
- 5 自宅療養者に対してオンライン診療を有効に利用し、患者の安心感を高めるとともに、処方薬の配達までのワンストップサービスを行うことが可能か確認したい。
- 6 入院できずに自宅で療養せざるを得ない患者が増えている。他の自治体では入院待機ステーションや酸素ステーションの整備が進んでいると聞いているが、自宅療養者などへの医療体制について、本市ではどのように考えているのか確認したい。
- 7 昨今の大雨洪水、土砂災害の甚大化により、自宅から避難所へ向かわねばならないケースが想定される。自宅療養者の避難について、どのような対応となるか。避難の介助、避難場所の確保など市の考え方を確認したい。
- 8 まだ接種予約ができない市民から、横須賀は接種が遅いということが言われている。しかし、接種率は県平均を上回っており、本市の接種計画がきちんと市民に伝わっていないと思われることから、改めて周知する必要がある。今後の周知計画はどのようになっているか。また、ワクチンの供給量が減少している中、接種予約に関する計画についても確認したい。
- 9 コロナ感染や濃厚接触者になったことで入学試験を受けられないなど、子どもの将来に大きく影響するようなことがないように、受験を控える中学3年生、高校3年生の希望者にはワクチンを優先接種する体制を整えていただきたい。
- 10 現在は、年齢区分の他には、基礎疾患の有無が優先順位の判断基準とな

っているが、家族の中に集団の中で過ごす者がいる場合は、感染のリスクが高まる。とりわけ、保育園や学校に通う世代は無症状のケースも多いため、気付かぬまま同居家族に感染を拡げることが考えられる。

については、家族に保育園や学校等に通う者がいる方には、優先して接種ができることが本来は望ましいが、そのような対応が可能か確認したい。

- 11 路上生活者やネットカフェ生活者などを含めたホームレスの方には接種券が届いておらず、ワクチン接種ができない状況にある。また接種に関する情報自体不十分である。北九州市ではNPOと行政が連携し、希望者へのワクチン接種を支援する取り組みがあるが、本市においてはどのような対応が可能か確認したい。
- 12 市立学校における9月6日以降の授業の対応について、早急に決定し周知を行っていただきたい。
- 13 配付されている一人一台端末（Chromebook）に関して、以下の点を確認したい。
 - (1) 端末を家庭での自主学習に用いることについて、現在どのような運用になっているか。また、それはどのような理由でそうなっているのか。
 - (2) 今後の感染状況によって再び休校せざるを得なくなった際、端末は緊急的に家庭で利用することができるか。また、小中学校への端末配備はどの程度進んでいて、配備済みの端末は各学校ですぐ使用できる状態にあるのか。
 - (3) 11月以後利用予定である学校用googleアカウントの初期設定を前倒しで行い、児童生徒が家庭学習で活用することはできるか。
- 14 BYOD(自分の持っている端末を使う)でzoom等を利用して朝礼を行うなど、単に家庭学習用プリントを配布し、電話で状況確認を行うのではなく、コロナ感染拡大により学習・交流機会を失うことのないよう、オンライン活用を意識した取り組みを早急に進めていただきたい。その際、家庭に端末や通信環境が無い児童生徒は登校して参加できるようにするなど、柔軟に対応していただきたい。
- 15 先般、コロナに感染した児童が、家族が陰性だったことから単独で入院したという報道があったが、このような事例は市内で多数あるのか。また、

入院先の病院の割り振りは県が決めると認識しているが、幼児、児童の場合は市内病院で対応できるのか確認したい。

16 コロナ軽症者向けの薬で患者の重症化と医療体制の崩壊を防ぐ切り札として期待される抗体カクテル療法に対する本市の考え方を確認したい。

17 8月18日、保育施設利用抑制について依頼する文書が市長名で発出された。この抑制効果について確認したい。

また、横浜市、川崎市では同様の依頼を行っているが、その際、利用料の減額をうたっている。本市では、園児の同居家族が濃厚接触者となり、健康観察期間中に登園しなかった場合のみ日割り減免となっている。どのような方法が効果的な利用抑制につながると考えているか、見解を確認したい。

18 8月27日、文部科学省から学校で児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドラインが示された。

これによると、濃厚接触者等の特定のための調査は通常保健所が行うが、緊急事態宣言対象地域の学校で感染者が出た際、学校において校内の候補者リストを作成したり、休校の判断を学校が行うこととなる。本市においても今後学校でこうしたことを行う可能性があるか確認したい。

19 現在市のHPには、「相談窓口」として、感染の疑いがある場合の対応が示されているが、フローチャートのような一画面でわかりやすいものを掲載していただきたい。

20 政府が9月上旬から幼稚園や小中学校に配布するという抗原検査キットについて、本市ではどのように活用することを想定しているのか。各学校での周知はどのようになっているか確認したい。

また、保育園や幼稚園、小学校等に通う子どものいる全ての家庭に抗原検査キットを配付するという神奈川県の実業の概要についてあわせて確認したい。

21 夏季休業明けの1週間は午前授業のみで、給食後、15時までは学校に滞在して良いこととなっているが、その間の子どもの居場所と保育の方式について確認をしたい。

放課後こども教室がある学校は何校あり、放課後こども教室はどのよう

な運用となるのか。放課後こども教室がない学校では、学校に滞在中の児童にどのような場をあてがうのか。安全面の監視はするのか。通常の放課後の学校開放と同じ運用とするのか。みんなの家はどのような運用とするのか。学童クラブが開所時間を前倒しする場合、その分の補償はどのように行うのか。あわせて9月6日以降の方針についても確認したい。

- 22 防災行政無線の用途は、本来、避難勧告などを住民に伝達することが中心だと考えられる。それを、1日2回も日常的に外出抑制の呼びかけては、いざ災害が起こった場合には効果が低くなってしまふ。しかも、内容が聞き取れないという市民も多い。

現在の防災行政無線の使い方は、効果的なのか。適正なものなのか。市民からどのような意見が寄せられているかも含めて、防災担当部署の見解を確認したい。

- 23 市職員・教職員の新型コロナウイルス感染者情報について、一般市民と同様に本人の同意を得た上での公表となっているのか。具体的には性別・年代の非公開を容易に選択できるようになっているのか確認したい。